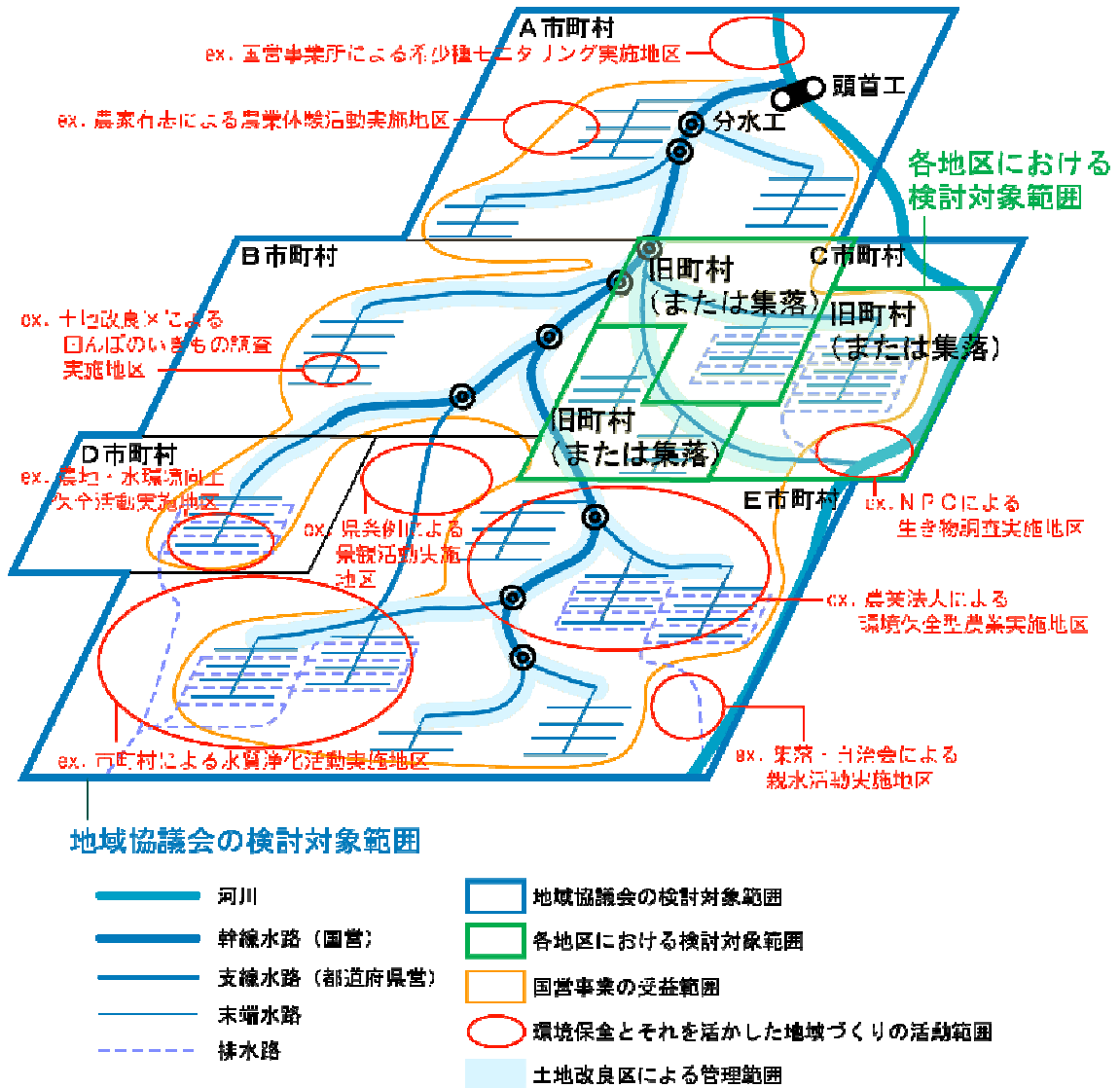


広域的な環境保全の対象地域の広がりと参加主体（イメージ）



3.1.3 「目標・ビジョン」を設定する

構想づくりの初期の段階から、参加主体間で検討に必要な事項に関する認識を共有することによって、構想づくりに対する理解をより深めるとともに、構想づくりに対する当事者意識を持つことを通じて、事業の実施段階における積極的な参加につなげていくことが重要である。

「目標・ビジョン」の設定に当たっては、参加主体の間で以下のようなステップで、合意形成を図りながら協議を円滑に進めることが重要である。

ステップ1：検討に必要な事項を明確にし、認識を共有する

ステップ2：参加者の活動内容・理念、課題や将来的な目標、地域全体で担う役割等の情報を共有する

ステップ3：広域的な地域で共有可能な目標・ビジョン及びそれを実現するためのサブテーマを設定する

【解説】

広域的な環境保全の取組や地域づくりに向けた取組に対する積極的な参画を得るためには、構想づくりの初期の段階から、参加主体間で検討に必要な事項に関する認識を共有することによって、構想づくりに対する理解をより深めるとともに、構想づくりに対する当事者意識を持つことを通じて、事業の実施段階における積極的な参画につなげていくことが重要である。

「目標・ビジョン」の検討に当たっては、地域協議会を中心に協議が行うが、地域協議会の参加者以外の者と、必要に応じて調整を行い、進めていくことに留意する必要がある。

目標・ビジョンの設定に当たっては、地域協議会の参加主体の間で以下のようなステップで、合意形成を図りながら協議を円滑に進めることが重要である。

1. 検討に必要な事項を明確にし、認識を共有する

「目標・ビジョン」の設定に向けて、構想づくりの目的、何をどの程度まで実施できるのか明確にすることが重要である。地域協議会の参加主体の中には、生産性の向上や希少種の保護に強い関心を有する人がいる場合もあるなど、農村環境に対する考え方、関わり方は多様である。

このため、単に参加者の自由な意見や要望を抽出するだけでは、議論が収束しないおそれがある。したがって、協議のステップ1としては、構想づくりの目的、検討の進め方、議論の対象、実施可能な手段の範囲等検討に必要な事項を明確に示し、その枠組みの中で意見やアイデアをだしてもらい、参加者全員で構想づくりの目的を共有しながら「目標・ビジョン」を設定する方針であることを明確にすることが必要である。

2. 参加者の活動内容・理念、課題や将来的な目標、地域全体で担う役割等の情報を共有する

協議のステップ2としては、参加者から既存の調査・計画の紹介、営農ビジョンの紹介、希少種の保全活動の紹介などを行ってもらうことで、お互いの活動を理解し、各参加者の持つ理念・活動内容、課題や将来像等の情報を共有化することが重要である。

各参加者の活動の課題や将来像から、地域全体の「目標・ビジョン」の方向性がうかがいあがる機会になるとともに、地域づくりを進めていく上でのアイデアの持ち主、取組の担い手としての可能性をうかがい知る機会になる。

また、地域協議会への参加者に関しては事前に説明してもらう項目を一覧表として準備することで、情報・記録の共有につながる。例えば、以下のように、現在の活動、10年後の目標等を整理することにより、各参加者の持つ共通の活動や課題、将来にむけての活動展開の方向性の関係を理解することが容易となる。

参加者の分析	
現在の活動に関して	将来の活動に関して
広域的な地域内の どこで 何名で どの程度の頻度で 何を目的として どのような活動を どの程度の規模で 現在の活動の課題は___である。 地域の魅力は ___ であると、とらえている。 実施している。	将来(この先 10 年程度を目標に)は どこで(活動範囲を広げ or 狭め) 何名で(規模を増やし or 減らし) どの程度の頻度で(増やし or 減らし) 目的を何に発展 or 変更して どのような活動に展開 or 変更して どのような規模で 地域で___の担い手となっている。 実施していきたい。

3. 広域的な地域で共有する目標・ビジョン及びサブテーマを設定する

協議でのステップ3として、材料として提示した環境資源等から共有感の持てるキーワードの候補をあげ、各団体の将来像等の集積から地域のあるべき姿・将来像の候補をあげて、それらを組み合わせながら、目標・ビジョンを表現するキャッチフレーズを設定する。

また、その過程であげられたキャッチフレーズの候補で、農村振興や環境整備・保全に係わる比較的具体的な取組や個々での活動の方向を示すものは、その具体性を活用して、サブテーマとして設定する。

なお、サブテーマの設定に当たっては、地域の環境資源の分布状況などを踏まえ、市町村区域など空間的なまとまりで設定したり、地域の自然環境、農業、生活環境、歴史・文化など分野ごとに設定することが考えられる。また、サブテーマの検討に当たっては、地区の関係者からのヒアリングを行うなどにより関係者との合意形成を図りながら進める必要がある

【事例】 広域的な地域を対象とした目標・ビジョンの設定の流れ

[岩手県「胆沢平野地区農村環境計画」(その2)]

1市2町全域を対象とした農村環境計画の検討では、農業農村整備事業を進めるための方策検討に当たり、(1)現況調査からの課題の把握、(2)各市町の掲げる将来像の把握、(3)住民意向の把握を行い、これらの結果からキーワードを抽出し、目標・ビジョンを設定した。さらに、その目標・ビジョンを踏まえ、サブテーマ(環境資源の活用・保全の方向性)を検討委員会での協議により策定している。

